

東京女子医科大学病院での 無痛分娩について

2026 年 7 月確認

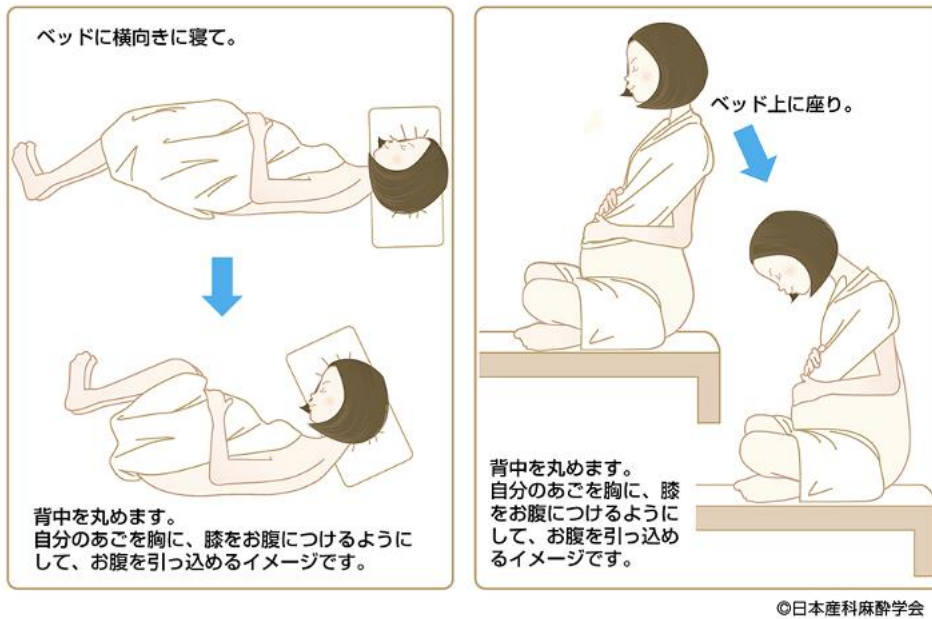
■当院での無痛分娩

当院では硬膜外麻酔あるいは脊髄くも膜下麻酔併用の硬膜外麻酔による鎮痛をおこなっています。この方法は現在、世界中で最も一般的な無痛（麻酔）分娩の方法です。**無痛分娩は、分娩すべての痛みや感覚がなくなるのではなく、痛みを和らげるものです。**赤ちゃんの下降感や子宮の収縮をある程度感じ、いきむ力を残しながら分娩を進めます。また、状況によっては痛みを感じながら出産することもあります。麻酔の効果には個人差があることもご理解ください。

硬膜外麻酔を用いる分娩では、お母さんへの麻酔薬の影響は少ないとされており、さらに薬が胎盤を通して赤ちゃんへ届くことはほとんどないと言われています。そのため、「麻酔なし」の分娩と「無痛（麻酔）分娩」で赤ちゃんへの影響に大きな差は認められておりません。帝王切開が必要となる頻度は上昇しないと報告されています。

■実際の流れ

硬膜外麻酔の開始の際には下記のような体勢を取っていただき、麻酔科医が背中側から処置を行います。処置後は、麻酔の効果を判断しながら麻酔科医が鎮痛を管理します。



■メリット

痛みを和らげることができる。

術後の回復が早い。

胎児への影響が少ない。

家族とゆったりとした時間を過ごせる。

■脊髄幹麻酔による合併症

頻度が多いもの：低血圧、排尿困難、掻痒、発熱、ふるえ、子宮収縮の増加、赤ちゃんの心拍数の増加、足の動かしにくさ

稀に起こるもの：硬膜穿刺後頭痛、局所麻酔薬中毒、神経障害、高位脊髄くも膜下麻酔、硬膜外血腫・膿瘍

■分娩への麻酔による影響

オキシトシン（陣痛促進剤）使用の増加

分娩時間（分娩第Ⅱ期：子宮口全開大から赤ちゃん誕生まで）の軽度な延長

■分娩中の過ごし方

無痛分娩中にトイレなどに移動する際は助産師と一緒に移動します。無痛分娩中の飲水は可能です。

（水、お茶、コーヒー、スポーツドリンクが飲水可能ですが、牛乳やミルク、つぶつぶの入った水分は食事の部類にはいるので摂取不可です）

■緊急時

お産の経過ではなく無痛（麻酔）分娩による緊急事態については、担当麻酔科医の責任のもとで診断と加療をおこない、チームを挙げて事態の改善にむけて全力を尽くします。

■その他

当院では無痛（麻酔）分娩時のカテーテル挿入は麻酔科医が行います。麻酔科医は24時間待機しておりますが、緊急の対応を行なっている時などでは無痛開始が遅れることがあります。いずれの場合においても患者さんの安全を最優先し、診療を行いますのでご理解いただけますようお願い申し上げます。

■費用

15万円（2025年10月より東京都より10万円助成）